

平成27年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	やや少	やや少
	褐斑病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ(防除情報第14号)	やや多	やや多
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	やや少	やや少
	コナジラミ類	並	並
	ハモグリバエ類	少	やや少
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	並	並
たまねぎ	ネギアザミウマ	やや多	やや多
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病(注意報第3号)	多	多
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	多	多
ブロッコリー	黒腐病	やや少	やや少
	べと病	並	並
	コナガ	多	多

【発生予報】 本文の( )内は平年値

**きゅうり**

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.3%(1.0%)、発生圃場率は33.3%(20.8%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.1%(4.7%)、発生圃場率は33.3%(48.5%)であった。

### 3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.4%(0.4%)、発生圃場率は16.7%(10.3%)であった。

### 4. ミナミキイロアザミウマ

平成27年12月17日付け病害虫発生予察防除情報第14号による。

### 5. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.8%(0.9%)、発生圃場率は16.7%(34.5%)であった。

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率19.9%)。

### 2. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.9%(寄生株率1.5%)、発生圃場率は33.3%(30.4%)であった。

### 3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.6%、発生圃場率15.7%)。

## レタス

### 1. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.7%)。

## 2. 菌核病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は7.0%(25.2%)であった。

## たまねぎ

## 1. ネギアザミウマ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は20.6%(7.6%)、発生圃場率は58.3%(51.2%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤がかかりにくい葉と葉の隙間に寄生しているので、薬剤は丁寧に散布する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤の連用はしない。

## いちご

## 1. うどんこ病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉での発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率3.2%)。また、果実での発生も認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.5%)。

## 2. 灰色かび病

平成27年12月17日付け病害虫発生予察注意報第3号による。

## 3. アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.7%(1.2%)、発生圃場率は14.8%(12.5%)であった。

## 4. ハダニ類

### (1) 予報内容

発生程度 多

### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は9.9%(2.4%)、発生圃場率は55.6%(21.8%)であった。

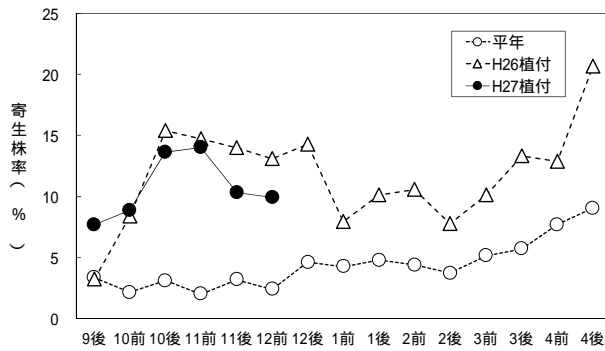


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移  
 平年：H17～H26の平均値(最大・小値除く)  
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19～H26の平均値

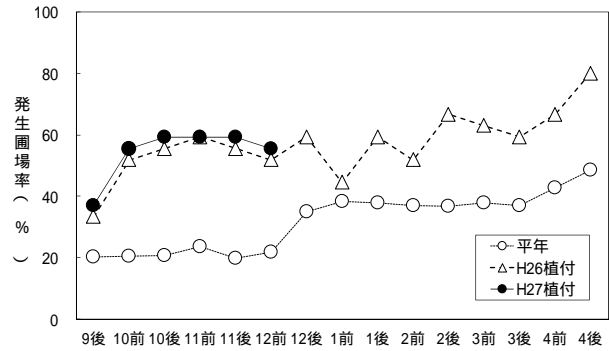


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移  
 平年：H17～H26の平均値(最大・小値除く)  
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19～H26の平均値

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすく、農薬が葉裏まで十分かかりにくいいため注意する。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。
- ウ 薬剤感受性低下の恐れが少なく、天敵に影響の少ない気門封鎖剤を活用する。なお、これらの薬剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。

## ブロッコリー

### 1. 黒腐病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.2%(過去8カ年平均3.3%)、発生圃場率は8.3%(同11.8%)であった。

### 2. ベと病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去8カ年平均発病株率0.1%、発生圃場率3.1%)。

### 3. コナガ

#### (1) 予報内容

発生程度 多

#### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は25.3%(過去8カ年平均7.3%)、発生圃場率は75.0%(同46.1%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤の連用はしない。

